

# パラオ共和国官房長官が市へ来訪



6月22日、パラオ共和国大統領の名代として、同国のセシリール・エルデベエル官房長官、ペリリュー州のテミー・シュムル知事、ドナルド・ハルオ大統領特別経済顧問が常陸大宮市を訪れました。



パラオ共和国は、日本から約3,200km南にあり、歴史や経済などの面で日本と強い結びつきのある国です。

人口は20,920人（2013年）、面積は488km<sup>2</sup>で、屋久島とほぼ同じ広さです。200以上の島があり、世界遺産でもある景勝地「ロックアイランド」として親しまれています。

また治安が良く自然豊かなこの国は、年間3万人以上の日本人が観光で訪れていて、その数は年々増加しています。

## <三次真一郎市長 歓迎の言葉>



この度、パラオ共和国の皆様が常陸大宮市へご来臨されたことに、心から歓迎の意を表します。

貴国と日本は昔から深い交流があり、先の大戦では多くの命が失われました。今年、戦後70年を迎え、4月には天皇皇后両陛下が慰霊のために貴国を訪問され、私も同行させていただくことができました。その時に、常陸大宮市が寄贈した消防車と救急車が私たちを出迎えてくれました。これは、昨年10月の独立20周年の時に市が寄贈させていただいた車両です。

この度のご来臨が、今後の友好協力関係の一層の発展に資する、実り多いものとなることを願い、歓迎の言葉といたします。

## 歓迎式 14:30～

官房長官らを乗せた車が、市役所南側玄関へ入ってくると、パラオ共和国と日本の旗を持った市議会議員や職員が出迎えました。歓迎ムードの中、車から降りた官房長官と市長は固く握手を交わしました。

その後、花束贈呈と記念撮影が行われました。



## 議場で目録贈呈 15:00～

4階の議場では、市長歓迎のあいさつと官房長官の演説が行われ、「贈られた緊急車両は大切に活用していきたい」と述べられました。続いて、今回寄贈する消防自動車の目録が市長から手渡されました。



## 遺族との懇談会 16:00～

戦没者の遺族との懇談会は、会員30人が参加しました。ペリリュー州知事のあいさつでは、「激戦地だったパラオには、まだ多くの遺骨が眠っており、今後の調査や収容作業を支援したい」と述べました。



## 歓迎晩餐会 19:00～

三人のご来市を記念し、ロックヒルゴルフクラブで約100人が参加して歓迎晩餐会が催されました。

晩餐会では、アトラクションとして緒川弥七太鼓の演奏が行われた後、記念品としてパラオ共和国へ切り絵（富山明峰氏作）が贈られ、大変喜んだ様子でした。



### 〔寄贈する消防車〕

ペリリュー島には消防車がなく、使用車でよいので寄贈してほしいとの要望に応えたものです。

消防ポンプ自動車 一台  
(東消防署 2次災害対応車両として使用)

